



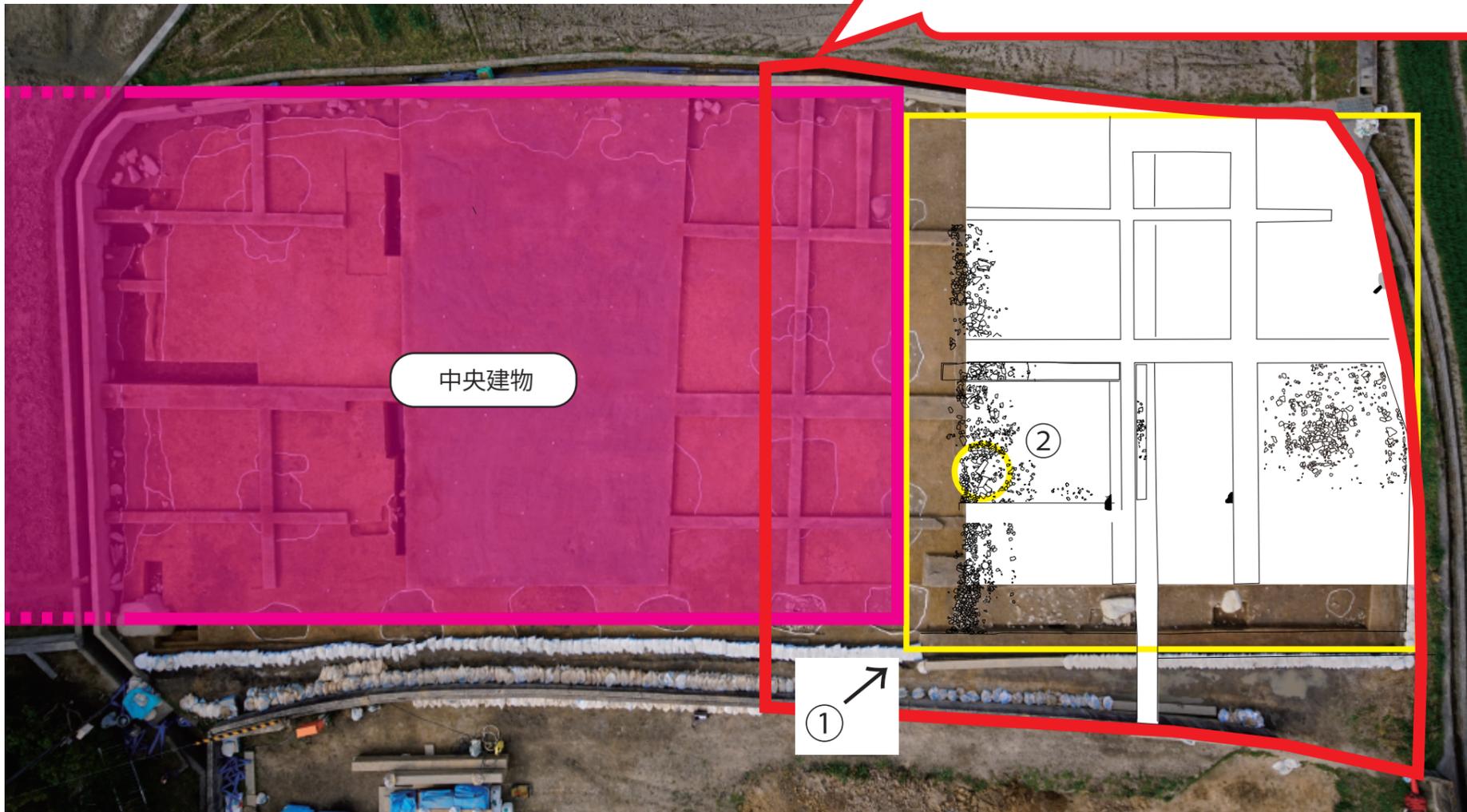
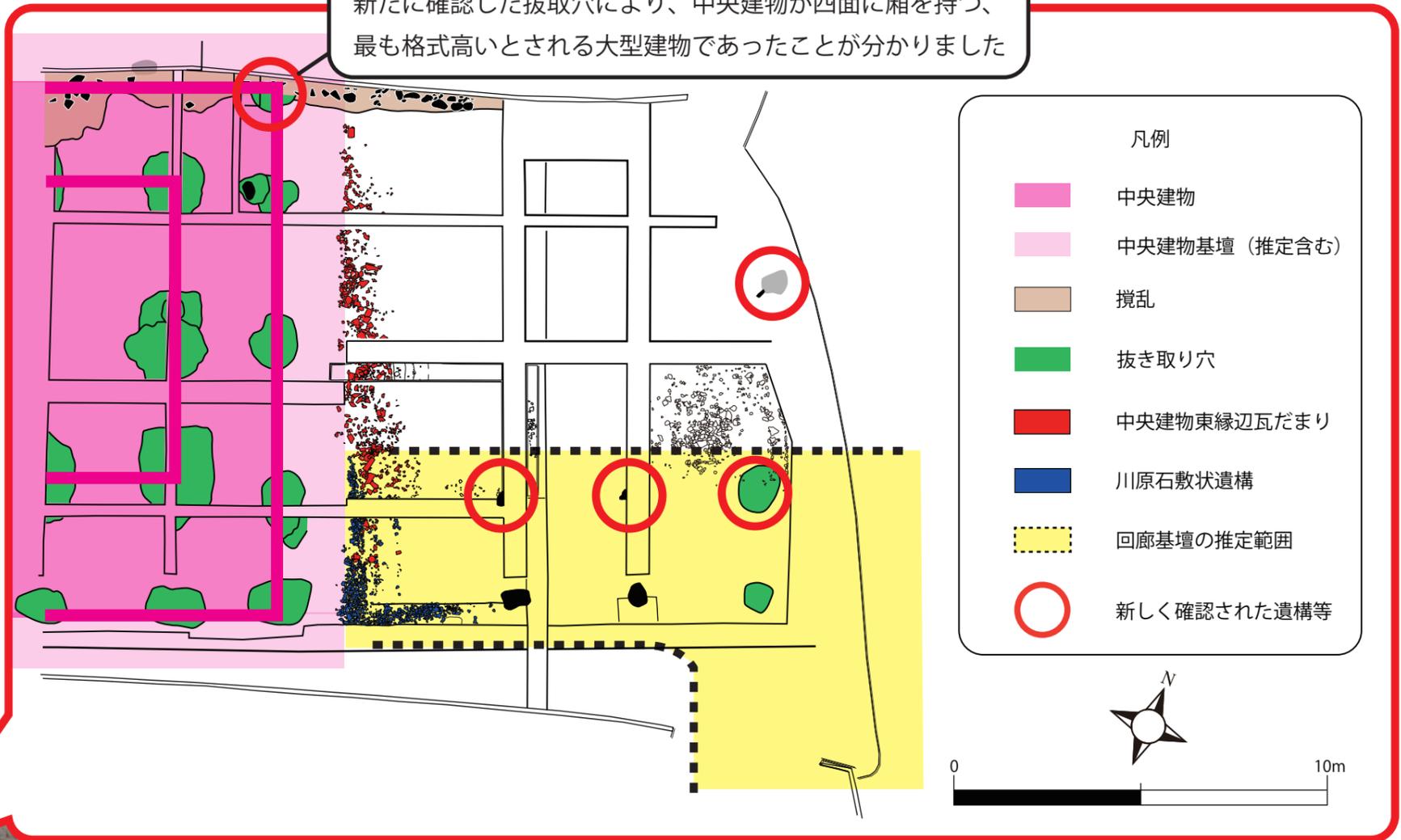
写真① 中央建物に回廊が取り付く様子

今回の調査では、これまでに知られていた礎石と対になる新たな礎石を確認し、抜取穴の検出状況と盛土の断面観察から、中央建物に回廊が取り付く様子が確認されました。

この回廊は、これまでに推定されていた南の水田のものと軸を揃え、南北に延びた回廊が、90度曲がって中央建物に繋がると推定されます。

中央建物と回廊の関連性や時代感については、今後の調査課題となります。

新たに確認した抜取穴により、中央建物が四面に廂を持つ、最も格式高いとされる大型建物であったことが分かりました



写真② 出土した軒丸瓦

中央建物の東縁辺部では、非常に多くの瓦がみつかりました。検出の状況から、建物が倒壊した姿ではなく、後の土地利用の際に動かされたものと推定されます。

出土した瓦の中には軒丸瓦（軒先に配置される瓦）が多く確認されており、残存状況も極めて良好なものが多くありました。